

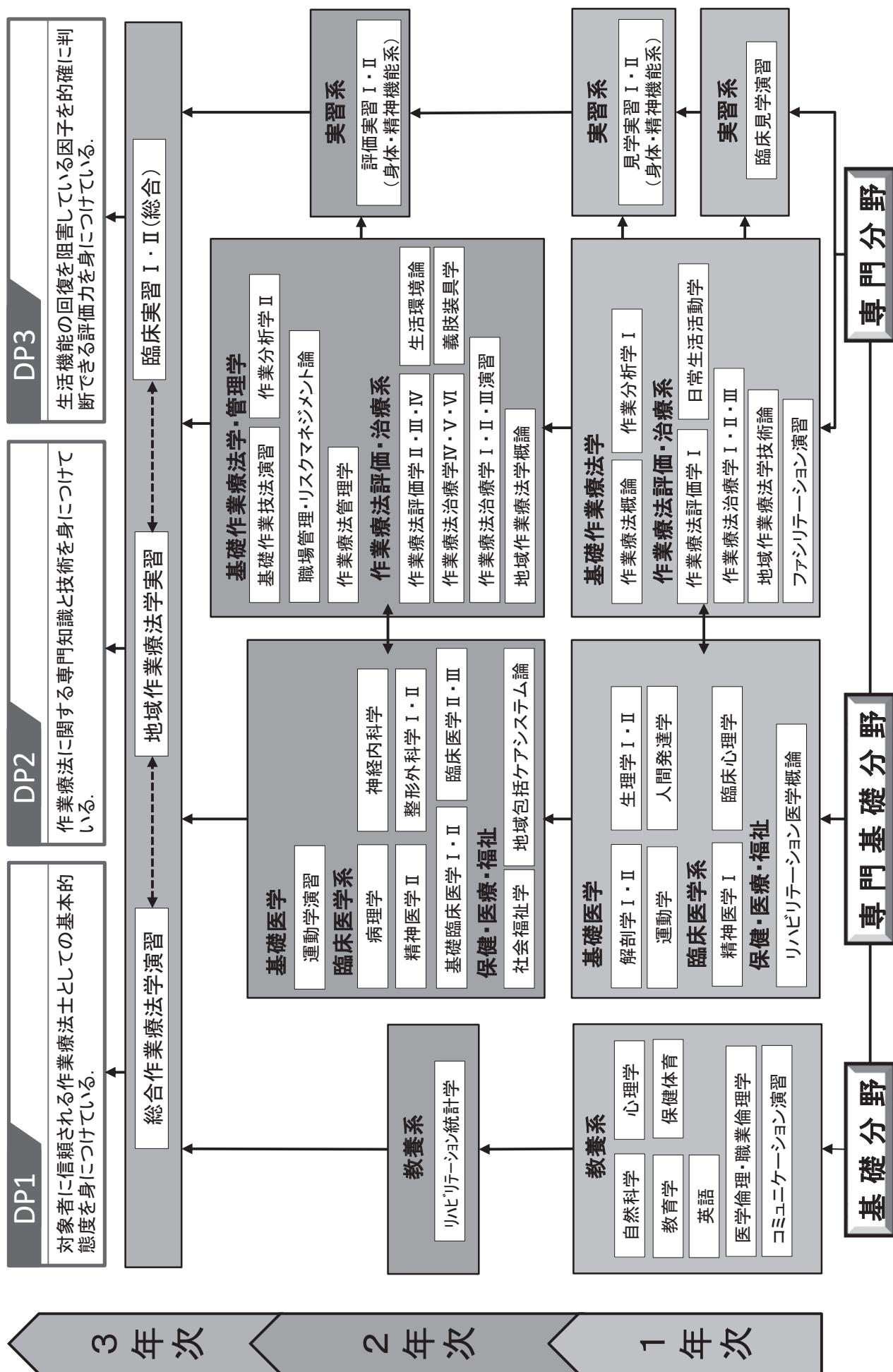
作業療法学科 カリキュラム
〈2 年次〉

分野	教育内容	科目名	1 年次		2 年次		3 年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心 理 学	2	30					2	30		14
		自 然 科 学	2	30					2	30	生物学系	
		英 語	2	30					2	30		
		保 健 体 育	1	30					1	30	講義・実技	
		教 育 学	2	30					2	30		
		リハビリテーション統計学			2	30			2	30		
		コミュニケーション演習	2	60					2	60		
		医学倫理・職業倫理学	2	30					2	30		
	基礎分野		13	240	2	30	0	0	15	270		14
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解 剖 学 I	4	60					4	60		12
		解 剖 学 II	4	60					4	60		
		生 理 学 I	4	60					4	60		
		生 理 学 II	4	60					4	60		
		運 動 学	4	60					4	60		
		運 動 学 演 習			1	30			1	30		
		人 間 発 達 学	2	30					2	30		
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病 理 学			2	30			2	30		14
		神 経 内 科 学			2	30			2	30		
		精 神 医 学 I	2	30					2	30		
		精 神 医 学 II			2	30			2	30		
		臨 床 心 理 学	2	30					2	30		
		整 形 外 科 学 I			2	30			2	30		
		整 形 外 科 学 II			2	30			2	30		
		基礎臨床医学 I			2	30			2	30	栄養・救急救命・予防	
		基礎臨床医学 II			2	30			2	30	薬学・画像	
		臨 床 医 学 II			2	30			2	30	内科学・小児科学	
		臨 床 医 学 III			2	30			2	30	一般臨床医学	
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30					2	30		4
		社 会 福 祉 学			1	15			1	15		
		地域包括ケアシステム論			2	30			2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む	
	専門基礎分野	小 計	28	420	22	345	0	0	50	765		30

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	1	30					1	30		5
		作業分析学Ⅰ	1	30					1	30		
		作業分析学Ⅱ			1	30			1	30		
		基礎作業技法演習			2	60			2	60		
		臨床見学演習	1	30					1	30		
	作業療法管理学	職場管理・リスクマネジメント論			1	30			1	30		2
		作業療法管理学			1	30			1	30	作業療法教育及び職業倫理含む	
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	1	30					1	30		5
		作業療法評価学Ⅱ			1	30			1	30		
		作業療法評価学Ⅲ			2	60			2	60		
		作業療法評価学Ⅳ			1	30			1	30		
	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅰ	1	30					1	30		19
		作業療法治療学Ⅰ演習			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅱ	1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅱ演習			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅲ	1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅲ演習			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅳ			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅴ			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅵ			1	30			1	30	喀痰等の吸引含む	
		日常生活活動学	1	30					1	30		
		義肢装具学			1	30			1	30		
		ファシリテーション演習	1	30					1	30		
		総合作業療法学演習					3	90	3	90		
	地域作業療法学	地域作業療法学概論			1	30			1	30		4
		生活環境論			2	60			2	60		
		地域作業療法学技術論	1	30					1	30		
	臨床実習	見学実習Ⅰ（身体機能系）	1	40					1	40		22
		見学実習Ⅱ（精神機能系）	1	40					1	40		
		評価実習Ⅰ			3	120			3	120		
		評価実習Ⅱ			3	120			3	120		
		臨床実習Ⅰ（総合）					8	360	8	360		
		臨床実習Ⅱ（総合）					8	360	8	360		
		地域作業療法学実習					1	40	1	40		
	専門分野	小計	12	380	30	960	20	850	62	2190		57
		総計	53	1040	54	1335	20	850	127	3225		101

作業療法学科カリキュラムツリー

2025.2.13



学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	リハビリテーション統計学
代 表 講 師	川 口 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	統計学は、ある事象・現象が起こる可能性を判断したり推測したりする際に、主観的なあるいは経験値での判断ではなく、客観的にその事象・現象が起こるまたは起こらない可能性を示すために用いる手法である。この授業では、基礎的な統計手法を理解し、統計用ソフトを用いて統計処理ができることを目的とする。				
到 達 目 標	1. 統計学の必要性を理解する。 2. 臨床に必要な統計手法の基礎を理解する。 3. 具体的な統計手法を使うことができる。 4. コンピューターを用いた統計処理を行うことができる。				
成績評価の方法と基準	各授業ごとの課題：40% 筆記試験：60%				
テキスト・教材等	『15 レクチャーシリーズ リハビリテーションテキスト リハビリテーション統計学』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	【統計学の基礎】 1) 統計学の概略について 2) 統計解析の必要性について 3) 統計解析の実際について 4) 授業で使うデータ用のアンケート実施 (key words) ①数理統計学・記述統計学・推測統計学・探索的データ解析				
第 2 回	【データの尺度・特性値・グラフ】 1) 尺度分類・4 つの尺度の相違点について 2) データの特性について 3) 目的別のグラフについて (key words) ①名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度 ②平均・中央値・最頻値・分散・標準偏差・範囲・四分位範囲 ③ヒストグラム・箱ひげ図・エラーバーグラフ・散布図・分割表				
第 3 回	【推定と検定の基礎】 1) 推定と検定 2) 検定の概略 3) 検定の実際 (key words) ①標本・正規分布・平均 ②帰無仮説・対立仮説・有意確率・95%信頼区間 ③効果量				
第 4 回	【2 標本の差の検定：パラメトリック法】 1) 差の検定 2) 2 標本の差の検定 3) 2 標本の差の検定の手順 4) 適用の注意点 (key words) ①差の検定・対応のある差・2 標本の差・対応のある差・3 標本以上の差 ② 2 標本 t 検定・シャピロウィルクの検定・ウェルチの検定 ③第 I 種の過誤・第 II 種の過誤				
第 5 回	【1 標本の差の検定：パラメトリック法】 1) 1 標本の差の検定 2) 対応ありと対応なしの違い 3) 対応ある t 検定を行う手順 4) 適用の注意点 (key words) ① 1 標本の差の検定・対応あり・対応なし・対応のある t 検定・母平均の差の検定				
第 6 回	【差の検定：ノンパラメトリック法】 1) ノンパラメトリック法の適用 2) マンホイットニーの検定 3) ウィルコクソンの検定 4) ノンパラメトリック法による結果の解釈における注意点 (key words) ①尺度 ②データ分布 ③対応あり ④対応なし ⑤差の検定の選択手順				
第 7 回	【相関】 1) 相関の概略 2) 相関係数 3) 相関の解析における注意点 4) 相関係数の検定を行う手順 5) 結果の解釈における注意点 6) 名義尺度の相関・散布図・相関の検定 (key words) ①変量と変数 ②正の相関 ③負の相関 ④無相関 ⑤相関係数の強さ ⑥外れ値				
第 8 回	【回帰分析・重回帰分析】 1) 回帰分析・重回帰分析の概略 2) 相関の解析と回帰分析および重回帰分析 3) 回帰分析・重回帰分析の手順 4) 回帰分析・重回帰分析を行う場合の注意点 (key words) ①回帰式 ②決定係数 ③寄与率 ④標準偏回帰係数				
第 9 回	【分割表の検定】 1) 分割表の概略 2) 分割表の検定 3) 分割表の検定における注意点 (key words) ①クロス集計表 ② χ^2 二乗検定 ③観察度数 ④期待度数 ⑤残差				
第10回	【一元配置分散分析・反復測定の分散分析】 1) 一元配置分散分析・反復測定の概略 2) 一元配置分散分析・反復測定の基礎事項 3) 多重比較 4) 一元配置分散分析・反復測定の手順 5) 適用と結果記載の注意点 (key words) ①多群比較 ②対応のない要因 ③対応のある要因 ④ポストホック検定 ⑤クラスカル・ワリス検定 ⑥フリードマン検定				
第11回	【多重ロジスティック回帰分析：text p.111 ～ p.120】 1) 多重ロジスティック回帰分析の概略 2) 多重ロジスティック回帰分析の基礎事項 3) 多重ロジスティック回帰分析の手順 4) 適用の注意点 (key words) ① 2 群の従属変数 ②オッズ比・95%信頼区間 ③ χ^2 二乗検定 ④ホスマー・レメショウの検定				
第12回	統計処理の実例 1 (平均値の差の検定の事例)				
第13回	統計処理の実例 2 (相関分析・回帰分析・分割表検定の事例)				
第14回	統計処理の実例 3 (一元配置分析・その他の事例)				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学演習
代 表 講 師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15 回 (30 時間)
実務経験内容 及び授業内容 との関連性	作業療法士として勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、身体運動の基礎知識を踏まえ、身体運動における関節運動と筋の作用、筋の触察について指導する。				
授 業 概 要	身体運動における筋骨格系の構造・機能と関節運動、力学原理に基づく運動の記述と解釈、正常な関節構成体の骨や筋の構造、体表からの指針と触察について講義と実技を行う。				
到 達 目 標	1. 筋骨格系の構造・機能と関節運動との関係を説明することができる。 2. 力学原理に基づく運動の記述と解釈について説明することができる。 3. 正常な関節構成体の骨や筋の構造を指し示し、体表から視診・触診することができる。				
成績評価の方法と基準	事後小テスト (20%)、学習ポートフォリオ (20%)、筆記試験 (60%)				
テキスト・教材等	『基礎運動学』『病気がみえる (vol. 11) 運動器・整形外科』『新・徒手筋力検査法 原著第 10 版』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	肩甲帯の運動学				
第 2 回	上肢帯および上肢の機能解剖 (肩甲帯)：骨・筋の触診				
第 3 回	肘関節・前腕の運動学				
第 4 回	上肢帯および上肢の機能解剖 (肘関節)：骨・筋の触診				
第 5 回	手関節・前腕の運動学				
第 6 回	上肢帯および上肢の機能解剖 (手・指)：骨・筋の触診				
第 7 回	股関節の運動学				
第 8 回	下肢帯および下肢の機能解剖学 (股関節)：骨・筋の触診				
第 9 回	膝関節の運動学				
第10回	下肢帯および下肢の機能解剖学 (膝関節)：骨・筋の触診				
第11回	足関節・足部の運動学				
第12回	下肢帯および下肢の機能解剖学 (足関節・足部)：骨・筋の触診				
第13回	脊柱・体幹の運動学				
第14回	頭頸部・体幹の機能解剖：骨・筋の触診				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	病 理 学
代 表 講 師	山 本 哲 郎 (元 熊本大学医学部長)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回 (30 時間)
授 業 概 要	疾病に見られる基本的な病態、すなわち、どのような原因で起こり (病因)、どのような変化を生じ (病変)、どのように推移し (経過)、最終的にどうなるのか (転帰)などを総論的に講義する。				
到 達 目 標	医療従事者として必要な医学・医療について基礎的知識を修得し、説明できるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『わかりやすい病理学』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	病理学と病因：現在の医学・医療分野において、病理学のはたす役割と、さまざまな疾病の原因について講義する。				
第2回	代謝異常①：細胞・組織の変性・壊死・萎縮および代謝産物の異常沈着などの退行性病変や、糖尿病などの糖代謝異常について講義する。				
第3回	代謝異常②：肥満や動脈硬化などの脂質代謝異常、低蛋白質血症や痛風などの蛋白質や核酸の代謝異常について講義する。				
第4回	循環障害①：虚血と梗塞、充血とうっ血、局所的な側副循環と肝硬変に伴う全身性側副循環、出血と出血傾向について講義する。				
第5回	循環障害②：血栓症と塞栓症およびDIC、全身性循環不全であるショックと浮腫について講義する。				
第6回	進行性病変：創傷治癒および骨折の治癒過程の病理学的変化を講義し、肉芽形成の重要性について理解させる。				
第7回	炎症①：炎症の原因、滲出と増殖などの基本的な病理組織学的変化およびそこに誘導される様々な化学伝達物質について講義する。				
第8回	炎症②：肺結核症や肝炎および消化管の炎症などの代表的な炎症性疾患について講義する。また、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの理解に必要な免疫のメカニズムについて理解させる。				
第9回	免疫異常：I型～V型のアレルギー疾患や慢性関節リウマチなどの自己免疫疾患及び腫瘍性免疫異常疾患について講義する。				
第10回	感染症：病原微生物の定着と発症、宿主反応、感染の経過および日和見感染や院内感染などについて講義し、疾病の病因として重要な感染症の基礎について理解させる。				
第11回	腫瘍①：腫瘍の肉眼的特徴および組織学的特徴、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて講義する。				
第12回	腫瘍②：腫瘍の浸潤転移の様式、宿主との関係、疫学的分野について講義する。				
第13回	腫瘍③：腫瘍の発生の原因と仕組み、癌遺伝子と癌抑制遺伝子、腫瘍の分類について講義する。				
第14回	先天異常：遺伝子異常、染色体異常、妊娠初期の胎芽期の異常および胎児期の異常に伴う先天性疾患について、講義する。				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	神経内科学
代 表 講 師	高 木 勝 隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回（30時間）
授 業 概 要	リハビリテーションに関わる神経疾患を中心として講義を行う。				
到 達 目 標	脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患の病態について説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（100％）				
テキスト・教材等	『コメディカルのための専門基礎分野テキスト 神経内科学』、『病気がみえる〈vol.7〉脳・神経』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	A：脳血管障害 脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、くも膜下出血				島崎一也
第2回	A：脳血管障害 脳動脈瘤、脳血管奇形、頭蓋内・外動脈解離、ウィリス動脈閉塞症				〃
第3回	B：認知症 アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、正常圧水頭症、クロイツフェルト・ヤコブ病				田河和代
第4回	C：頭蓋内圧亢進症、D：頭部外傷、E：脳腫瘍				島崎一也
第5回	F：変性性神経疾患 筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症				〃
第6回	F：変性性神経疾患 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症				〃
第7回	F：変性性神経疾患 Parkinson 病、パーキンソンニズム、ハンチントン病				〃
第8回	G：脱髄疾患 多発性硬化症、視神経脊髄炎				〃
第9回	H：感染性疾患 髄膜炎・脳炎、HTLV-1、急性灰白髄炎、スピロヘータ、プリオン病				高木勝隆
第10回	I：脊髄疾患				島崎一也
第11回	J：代表的なニューロパチー ギラン・バレー症候群				〃
第12回	K：代表的なミオパチー 筋ジストロフィー症、L：その他の筋疾患 重症筋無力症				〃
第13回	M：小児神経疾患 脳性麻痺、知的障害、二分脊椎				矢形あゆみ
第14回	N：機能性疾患 頭痛、てんかん、ナルコレプシー				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	精神医学Ⅱ
代 表 講 師	宮 内 大 介 (所属：くまもと悠心病院) 白 石 耕 平 (所属：くまもと悠心病院精神保健福祉士)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回（30時間）
授 業 概 要	教科書、プリントを用いて講義を行い、問題演習にて講義のふりかえりを行う。				
到 達 目 標	精神保健、支援の仕組みの理解				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『《系統看護学講座 別巻》精神保健福祉』、『《標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野》精神医学』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	精神保健総論				宮内大介
第2回	ライフサイクルと精神保健				〃
第3回	精神医療の歴史				白石耕平
第4回	精神保健福祉に関する法律				〃
第5回	こころのケアと治療（ケアマネジメント、チームアプローチ）				〃
第6回	精神保健福祉の変遷と動向				〃
第7回	精神障害者の在宅支援				〃
第8回	特定の状況に対する精神保健福祉（貧困、虐待）				〃
第9回	地域生活支援の展開				〃
第10回	特定の状況に対する精神保健福祉（依存症）				〃
第11回	認知症の支援について				〃
第12回	高齢者の医療、福祉、介護について①				〃
第13回	高齢者の医療、福祉、介護について②				〃
第14回	まとめ				宮内大介
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	整形外科学 I
代 表 講 師	高 田 理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	『標準整形外科学』を用い、運動器疾患の病態・診断・治療の基礎を体系的に学ぶ。骨折、変性疾患、脊椎疾患、スポーツ障害など主要な整形外科疾患を理解し、画像所見や治療法の概要を把握する。臨床実習及び国家試験に対応できる知識の習得を目指す。				
到 達 目 標	・整形外科疾患の病態を理解し説明できる。 ・画像所見・検査所見の基本を理解できる。 ・保存療法・手術療法の概要を説明できる。 ・国家試験レベルの問題に対応できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『標準整形外科学』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	整形外科学総論・骨総論				高田理恵子
第 2 回	外傷（外傷の分類・骨折・脱臼）				〃
第 3 回	外傷（外傷の分類・骨折・脱臼）				〃
第 4 回	外傷（外傷の分類・骨折・脱臼）				〃
第 5 回	スポーツ外傷				〃
第 6 回	スポーツ外傷				〃
第 7 回	スポーツ外傷				〃
第 8 回	脊椎疾患（頸椎・胸椎・腰椎）				池田幸広
第 9 回	脊椎疾患（頸椎・胸椎・腰椎）				〃
第10回	脊椎疾患（頸椎・胸椎・腰椎）				〃
第11回	腰痛症				〃
第12回	変形性関節症（膝関節・股関節）				高田理恵子
第13回	変形性関節症（膝関節・股関節）				〃
第14回	変形性関節症（手・指関節・類似疾患）				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	整形外科学Ⅱ
代 表 講 師	高 田 理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	『標準整形外科学』を用い、運動器疾患の病態・診断・治療の基礎を体系的に学ぶ。脊髄損傷、関節リウマチ、小児疾患、骨壊死疾患など主要な整形外科疾患を理解し、画像所見や治療法の概要を把握する。臨床実習及び国家試験に対応できる知識の習得を目指す。				
到 達 目 標	・整形外科疾患の病態を理解し説明できる。 ・画像所見・検査所見の基本を理解できる。 ・保存療法・手術療法の概要を説明できる。 ・国家試験レベルの問題に対応できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	『標準整形外科学』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	脊髄損傷				福島芳子
第 2 回	脊髄損傷				〃
第 3 回	関節リウマチ				〃
第 4 回	関節リウマチ				〃
第 5 回	手・足部の変形				高田理恵子
第 6 回	肩関節疾患				〃
第 7 回	肩関節疾患				〃
第 8 回	絞扼神経障害				池田幸広
第 9 回	末梢神経障害				〃
第10回	切断				福島芳子
第11回	切断				〃
第12回	骨壊死疾患				池田幸広
第13回	小児疾患				福島芳子
第14回	小児疾患				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	基礎臨床医学 I
代 表 講 師	嶋 津 さゆり (所属：熊本リハビリテーション病院) 川 口 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	(嶋津) 高齢社会の日本では、元気な高齢者作るために機能訓練と栄養管理は重要です。リハビリテーションと栄養管理は同時に考える必要があります。栄養の重要性を説明します。 (川口、非常勤講師) 健康、疾病及び障害について、その予防に関する基礎知識を習得し、高度化する医療ニーズに対応するため公衆衛生学、救急救命の基礎を学ぶ。				
到 達 目 標	(嶋津) 対象者の栄養状態を確認しながら機能訓練を行うセラピストになる。 (救急) 救急救命の基礎として、赤十字ベーシックライフサポーターの検定に合格すること。 (川口) 予防の基礎について説明することができる。				
成績評価の方法と基準	(嶋津) 栄養学：授業内にて課題を提出することでその課題内容にて評価する。 (川口) 救急救命の基礎：資格取得をもって評価とする。 予防の基礎：筆記試験 100%				
テキスト・教材等	(嶋津) 『リハビリテーションテキスト栄養学・生化学』 (川口) 配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	オリエンテーション、管理栄養について				嶋津さゆり
第 2 回	栄養の基礎 (生化学・代謝等)				〃
第 3 回	栄養アクセスについて (経腸栄養・静脈栄養)				〃
第 4 回	病態別栄養法について				〃
第 5 回	リハビリテーション栄養について				〃
第 6 回	サルコペニア・フレイル・ロコモティブシンドロームについて				〃
第 7 回	嚥下調整食と食事介助と栄養のまとめ				〃
第 8 回	予防の基礎① (予防の概念、疾病の予防、障害の予防、他)				川口航平
第 9 回	予防の基礎② (一次予防、二次予防、三次予防、感染症予防、他)				〃
第10回	予防の基礎③ (ライフスタイルにおける予防と対策、行動変容、他)				〃
第11回	予防の基礎④ (ライフスタイルにおける予防と対策、行動変容、まとめ)				〃
第12回	救急救命の基礎①：心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置 (BLS) の概要				非常勤講師
第13回	救急救命の基礎②：手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED (自動体外式除細動器) を用いた除細動などを救急救命の基礎演習①				〃
第14回	救急救命の基礎③：手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED (自動体外式除細動器) を用いた除細動などを救急救命の基礎演習②				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	基礎臨床医学Ⅱ
代 表 講 師	馬 場 祐 之 (所属：熊本赤十字病院) 森 直 樹 (所属：御幸病院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	(馬場) 各種画像診断の原理から実際の臨床画像について学び、臨床の場で遭遇する疾患と画像所見の関係について理解を深める。画像所見を理解する事は実際の理学療法プログラムを作成する上で重要であり、画像所見から得られた情報を他の医療スタッフと共有する事はコミュニケーションを円滑に行う上で必須である。 (森) 適正な薬物治療に関わる基本部分を学習することを通じ、医療現場における薬剤師等との関わり方についても含めて講義する。				
到 達 目 標	(馬場) 画像を構成する要素・原理について理解した上で、疾患毎の代表的な画像所見を解析し、病態を把握できる事を目標とする。 (森) 代表的な薬の作用、副作用、体に入り出ていくまでに関する基礎的知識を習得する。 薬物治療が主体となる疾患についての薬物療法の基本的知識を習得する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	(馬場)『リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 症例から学び障害を読み解く』 (森) リハベシック 薬理学・臨床薬理学				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	画像診断の原理 単純XP/CT/MRI/RI/US				馬場祐之
第 2 回	脳のCT 脳出血などの画像所見				〃
第 3 回	脳のMRI 脳梗塞などの画像所見				〃
第 4 回	脳血管障害以外の中中枢神経疾患・脳腫瘍など				〃
第 5 回	脊椎・脊髄の画像診断・脊椎転移・骨折など				〃
第 6 回	上肢疾患の画像診断 肩関節・肘関節・骨折				〃
第 7 回	下肢疾患の画像診断 大腿骨頸部骨折・膝関節・アキレス腱				〃
第 8 回	薬による病気の治療、役割、作用・副作用の仕組み、剤形について概説できる				森 直樹
第 9 回	薬の体内動態（吸収・分布・代謝・排泄）と相互作用について概説できる				〃
第10回	感染・炎症の制御と呼吸器の治療薬について理解できる				〃
第11回	疼痛の制御と治療薬、睡眠薬について理解できる				〃
第12回	循環器系の病態（高血圧・狭心症等）と薬剤について理解できる				〃
第13回	代謝性疾患（糖尿病・骨粗鬆症等）の治療薬について理解できる				〃
第14回	中枢神経系の病態（パーキンソン病等）と薬剤について理解できる				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床医学Ⅱ
代 表 講 師	岩 谷 典 学 (所属：熊本県総合保健センター) 高 木 勝 隆 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	(高木) 理学療法士、作業療法士として、対象者へ医学的リハビリテーションを的確に実施するために、必要な基礎知識としての内科学を総合的視点から講義する。 (岩谷) 小児の特徴は常に成長・発達していることである。出生から思春期にいたるまでの各時期の身体的形態や機能の特徴、小児の主な疾患、重要な疾患について、また疾患と障害との関連性について講義を行う。				
到 達 目 標	(高木) 理学療法士、作業療法士として、対象者へ医学的リハビリテーションを的確に実施するために、必要な基礎知識としての内科学を総合的視点から理解する。 (岩谷) 小児期の身体的形態や機能の特徴、小児に特有な疾患、重要な疾患について学び、また疾患と障害との関連性について理解し、小児リハビリテーションに活かすことができるよう小児科学の基本的知識を習得する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	(高木) 『＜標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野＞内科学』『＜標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野＞老年学』 (岩谷) テキスト「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 (第 6 版)」、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	内科学総論：内科学について、内科学を学ぶ意義 代謝性疾患：代謝調節の仕組み、糖尿病の分類と症状、PT・OT との関連事項				明瀬敬二
第 2 回	循環器、血液・造血器疾患： 解剖、生理、症候、病態、疾患各論、心臓・腎リハビリテーション、PT・OT との関連事項 形態、生理、症候、病態、疾患各論、PT・OT との関連事項				渕野浩二
第 3 回	呼吸器疾患、感染症： 解剖、生理、症候、病態、疾患各論、呼吸リハビリテーション、院内感染、予防、PT・OT との関連事項				高嶋美和
第 4 回	消化管、肝・胆・膵疾患： 解剖、生理、症候、病態、疾患各論、PT・OT との関連事項				池田耕治
第 5 回	内分泌、アレルギー・膠原病・免疫不全症： 仕組み、生理、症候、病態、疾患各論、PT・OT との関連事項 免疫系の働き、症候、疾患各論、PT・OT との関連事項				高木勝隆
第 6 回	老年学総論と高齢者へのアプローチ： 加齢と老化、高齢者との接し方、評価（機能、栄養状態、臨床検査値）と薬物療法				池田裕輔
第 7 回	高齢者に特徴的な症候と老年症候群				〃
第 8 回	高齢者の疾患について 1) 13 循環器疾患～ 21 泌尿器疾患 pp128 ～ pp246 (内科学での復習と相違点) 2) 22 骨粗鬆症と運動器疾患～ 29 東洋医学 pp247 ～ pp319 (要点のみ)				明瀬敬二
第 9 回	高齢者をとりまく環境とリハビリテーションについて pp323 ～ 394				〃
第10回	小児の成長と発達：成長と発達の特徴と評価法、小児の栄養ほか				小児科学 (岩谷典学)
第11回	新生児・未熟児疾患：低出生体重児、新生児仮死、呼吸障害、医療的ケア児ほか 小児の事故・救急：誤飲・誤嚥、頭部外傷、児童虐待ほか				〃
第12回	先天異常と遺伝病：遺伝子・染色体異常、先天代謝異常症ほか 神経疾患 (1)：脳炎、髄膜炎、先天性神経疾患ほか				〃
第13回	神経疾患 (2)：てんかん、けいれん性疾患、脳性まひ、運動器疾患ほか 発達障害・神経発達症：自閉スペクトラム症、ADHD、限局性学習症ほか				〃
第14回	その他の主な小児の疾患：感染性疾患、アレルギー疾患、自己免疫疾患ほか				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療学科 2 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床医学Ⅲ
代 表 講 師	谷川 史城（所属：熊本泌尿器科病院） 辻田 賢一（所属：熊本大学病院） 西田 健朗（所属：熊本中央病院） 江崎 公明（所属：国立病院機構 宮崎病院 名誉院長）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	（谷川）泌尿器科学：泌尿器科分野における基礎知識 （辻田）循環器科学：循環器疾患の診断と治療について学び理解する事。 （西田）代謝学：糖代謝及び糖尿病の病態、食事・運動療法、薬物療法に加え、臨床的な知識を一括することで、糖尿病に対する総合的な知識を習得する。また、その他の代謝疾患や内分泌疾患についても、概念や特徴など、医療従事者として最低限知っておくべき知識を習得する。 （江崎）呼吸器科学：呼吸のメカニズムや呼吸器疾患の病態と治療を理解する。 疼痛管理学：急性痛と慢性痛（病的痛み）を理解し、痛みの薬物療法・物理療法・運動療法・患者教育・認知行動療法を理解する。				
到 達 目 標	（谷川）泌尿器科学：尿路および男性生殖器疾患の理解 （辻田）循環器科学：循環器疾患の因子、原因を理解し、予防と治療について学ぶ。 （西田）代謝学：糖尿病に関する知識はもとより、薬物療法、運動療法および栄養療法を学ぶことで、糖尿病のチーム医療における理学療法士の役割を認識し、医師の指示の下で糖尿病患者に療養指導を行うことについて理解する。また、その他の代謝疾患や内分泌疾患についても、概念や特徴など、基本的な点を理解する。 （江崎）呼吸器科学：各呼吸器疾患の病態を理解し、呼吸リハビリテーションに活用する。 疼痛管理学：ペインリハビリテーションの考え方を理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験				
テキスト・教材等	（谷川）泌尿器科学：『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学（8）腎・泌尿器』 （辻田）循環器科学：『系統看護学講座、専門分野Ⅱ、循環器 成人看護学③』 （西田）代謝学：『糖尿病治療ガイド 2024』 （江崎）呼吸器科学：『《標準理学療法・作業療法学 専門基礎分野》内科学』 疼痛管理学：スライド資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	尿路及び男性生殖器の構造と生理				泌尿器科学 （谷川史城）
第 2 回	腎・泌尿器系疾患（感染症・結石・腫瘍の病態・排尿障害）				〃
第 3 回	総論（心臓血管の解剖や生理など）				循環器科学 （辻田賢一）
第 4 回	高血圧				循環器科学 （山本英一郎）
第 5 回	不整脈				循環器科学 （花谷信介）
第 6 回	虚血性心疾患				循環器科学 （松澤泰志）
第 7 回	心不全				循環器科学 （泉家康宏）
第 8 回	代謝疾患：代謝疾患の考え方、糖尿病について （病態生理、診断、検査、疫学、分類・成因、合併症、治療）				代謝学 （西田健朗）
第 9 回	代謝疾患：低血糖症、その他の代謝疾患について 内分泌疾患：内分泌疾患について（病態生理、治療）				〃
第10回	肺の解剖と生理、酸素化障害の原因、酸素療法 呼吸器疾患の症候と病態生理				呼吸器科学 （江崎公明）
第11回	臨床検査所見と判断、呼吸器疾患各論①				〃
第12回	呼吸器疾患各論②、呼吸リハビリテーション				〃
第13回	痛みの生理、急性痛の覚知と慢性痛への移行メカニズム 痛みの原因診断と薬物療法、がん性疼痛と緩和医療、心因性疼痛				疼痛管理学 （江崎公明）
第14回	ペインリハビリテーション（物理療法、運動療法、患者教育、認知行動療法）				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	社会福祉学
代 表 講 師	井 上 ゆかり（所属：熊本学園大学）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：9回（18時間）
授 業 概 要	社会福祉とは、社会的・生活的困難を抱える人が幸福に生きる権利をその人とともに作り出すことをいう。人間は人生の中で様々な問題を抱えて生きている。そうした1人の人間の生存を支えるには、その人らしい生活を確保し高めることが求められる。本授業では、様々な困難を抱えた人の主体性・人格的価値を尊重し、ウェルビーイングを高めること（enhance wellbeing）を「社会」の仕組みとして確保しなければならないことを学ぶ。				
到 達 目 標	社会福祉の基礎となる内容を理解し、生活の中にある課題を捉える視点を持って、社会の中の様々な課題を見つめ、援助者としてどのような方法や課題解決の営みがあるかを理解する力を身につける。特に社会福祉の対象となりやすい障害者・高齢者・生活困窮者などがなぜ対象となりやすいのかを理解する。				
成績評価の方法と基準	授業中のレポート：20%、定期試験：80%				
テキスト・教材等	その都度、資料教材プリントを配布				
回 数	授 業 内 容				
第1回	障害者の人権と障害者差別解消法				
第2回	旧優生保護法と社会的障壁				
第3回	社会保障制度の事始め 一年金保険制度				
第4回	低所得者と公的扶助 一社会的排除と社会福祉的課題				
第5回	介護保険政策と社会的課題				
第6回	雇用保険と労災保険そして三池炭じん爆発				
第7回	地域社会から社会福祉へのアプローチ（1）：災害関連死				
第8回	地域社会から社会福祉へのアプローチ（2）：水俣病				
第9回	試 験				

学 科	作業療法学科 2年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	地域包括ケアシステム論
代 表 講 師	高 木 勝 隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士（助言者）として地域ケア会議に参加している教員等が、対象者の自立支援に関する助言等の経験を活かし、地域包括ケアシステムに関する基本的概要について講義する。				
授 業 概 要	地域包括ケアシステムの構築について、その概要を講義する。また、非常勤講師により、関連施設や関連職種について、その概要と役割を講義する。				
到 達 目 標	・地域包括ケアシステム・多職種連携に関する基本的概要について説明することができる。 ・関連職種の概要と役割を説明することができる。 ・自立支援・就労支援の概要について説明することができる。				
成績評価の方法と基準	発表資料：10%、関連職種レポート：45%、筆記試験：45%				
テキスト・教材等	配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	地域包括ケアシステムとは、多職種連携、地域包括支援センター、地域ケア会議等				高木勝隆
第2回	地域リハビリテーション広域支援センター、地域密着支援センター、認知症疾患医療センター等				〃
第3回	関連職種（介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士、保健師、看護師、言語聴覚士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、歯科衛生士他）の概要（資料作成）				〃
第4回	関連職種（介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士、保健師、看護師、言語聴覚士、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカー、管理栄養士、歯科衛生士他）の概要（発表）				〃
第5回	地域包括支援センターの概要と機能				非常勤講師
第6回	介護支援専門員の概要、業務内容と役割				〃
第7回	社会福祉士の概要、業務内容と役割				〃
第8回	介護福祉士の概要、業務内容と役割				〃
第9回	保健師の概要、業務内容と役割				〃
第10回	看護師の概要、業務内容と役割				〃
第11回	言語聴覚士の概要、業務内容と役割				〃
第12回	精神保健福祉士の概要、業務内容と役割				〃
第13回	医療ソーシャルワーカーの概要、業務内容と役割				〃
第14回	自立支援・就労支援				高木勝隆
第15回	試 験				

学 科	作業療法学 2 年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	作業分析学Ⅱ
代 表 講 師	高 木 勝 隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、作業分析の視点や考え方について講義し、作業における生物的、心理的、社会的、文化的関係を含めた包括的作業分析と限定的作業分析の演習を行う。				
授 業 概 要	作業分析及び作業心理学の概要、人間工学の手法について講義を行い、包括的作業分析と限定的作業分析方法を用い演習を行う。				
到 達 目 標	・対象者に適応した作業と作業療法治療に用いる作業活動について、運動学的と人間工学的視点、作業療法独自の理論を基盤として述べることができる。 ・作業学における生物的、心理的、社会的、文化的関係まで含めた包括的作業分析と限定的作業分析について説明することができる。 ・日常生活活動及び作業について、分析機器や評価尺度を活用し分析することができる。 ・作業療法士が用いる作業活動とその治療的意義を基に分析することができる。 ・分析した内容を報告することができる。				
成績評価の方法と基準	レポート（20％）、筆記試験（30％）、発表（50％）				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第1巻 作業療法概論』、『作業療法学全書 第2巻 基礎作業学』、『基礎運動学』、『計測法入門 計り方、計る意味』、『臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	作業療法における作業：作業の定義、分類、人間と作業				渕野 浩二
第2回	作業学と作業療法についての定義・分類：作業療法の目的、対象、手段、作業の意味、作業バランス、作業的存在				〃
第3回	作業心理学：欲求と動因、動機づけ、適性、性格、興味、価値観				高木 勝隆
第4回	作業心理学：疲労、適合と段階付け、指導法の一般的事項				〃
第5回	人間工学の手法：生理的機能の測定と評価、心理的機能に関する主観的調査と評価				池田裕輔 川口航平
第6回	作業分析：還元主義的作業分析、包括的作業分析、限定的作業分析、各種治療理論と作業分析				池田裕輔 川口航平
第7回	作業分析：分析機器（重心動揺計、筋電図、三次元動作解析装置）				池田裕輔 川口航平
第8回	作業分析：作業分析計画の作成				高木・渕野 池田・川口
第9回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				高木・渕野 池田・川口
第10回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				高木・渕野 池田・川口
第11回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				高木・渕野 池田・川口
第12回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				高木・渕野 池田・川口
第13回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				高木・渕野 池田・川口
第14回	作業分析演習：レポート作成および報告				高木・渕野 池田・川口
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	基礎作業技法演習
代 表 講 師	矢 形 あゆみ（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回（60時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法場面に於いて作業活動を提供した経験のある教員と専門家が、作業活動の目的・治療的応用・リスク管理、道具や材料の名称や用途について講義する。				
授 業 概 要	各種作業活動の目的・治療的応用・リスク管理・道具や材料の名称と用途について講義及び演習を行う。				
到 達 目 標	1. 作業療法場面に於いて対象者への適切に作業活動を提供できるようになるために、作業の目的・治療的応用について説明できる。 2. 各作業に必要な道具・材料についてその名称や用途を説明できる。 3. 各作業道具の管理と作業空間の設定を安全に行い、場面ごとに応用することができる。				
成績評価の方法と基準	包括的作業分析ワークシート（100%）				
テキスト・教材等	『ひとと作業・作業活動 作業の知をとき技を育む 新版』、各作業の配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	オリエンテーション・準備：作業療法に用いられる作業活動種目の紹介・各活動種目の特徴について				田河和代 矢形あゆみ 池田裕輔 川口航平
第2回	オリエンテーション・準備：作業療法に用いられる作業活動種目の紹介・各活動種目の特徴について				〃
第3回	さをり織りにおける作業工程				宮田信一 矢形あゆみ
第4回	さをり織りにおける作業工程				〃
第5回	さをり織りにおける作業工程				〃
第6回	さをり織りにおける作業工程				〃
第7回	さをり織りにおける作業工程				〃
第8回	さをり織りにおける作業工程				〃
第9回	タイルモザイクにおける作業工程				矢形あゆみ
第10回	タイルモザイクにおける作業工程				〃
第11回	タイルモザイクにおける作業工程				〃
第12回	タイルモザイクにおける作業工程				〃
第13回	革細工における作業工程				川口航平
第14回	革細工における作業工程				〃
第15回	革細工における作業工程				〃
第16回	革細工における作業工程				〃
第17回	革細工における作業工程				〃
第18回	革細工における作業工程				〃
第19回	木工・園芸における作業工程				池田裕輔 川口航平
第20回	木工・園芸における作業工程				〃
第21回	木工・園芸における作業工程				〃
第22回	木工・園芸における作業工程				〃
第23回	木工・園芸における作業工程				〃
第24回	木工・園芸における作業工程				〃
第25回	ペーパークラフトにおける作業工程				田河和代
第26回	ペーパークラフトにおける作業工程				〃
第27回	ペーパークラフトにおける作業工程				〃
第28回	ペーパークラフトにおける作業工程				〃
第29回	グループ別に作業活動・各作業の包括的作業分析を行う				田河和代 矢形あゆみ 池田裕輔 川口航平
第30回	グループ別発表				〃

学 科	作業療法学科 2年次	教育 内容	作業療法管理学	科目名	職場管理・リスクマネジメント論
代 表 講 師	青 山 和 美 (所属：にしくまもと病院) 高 木 勝 隆 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
授 業 概 要	健全な組織運営に必要な労務・人・医療安全・報酬・情報等の管理について、法・制度や倫理の視点から構造を学習する。また、医療安全管理については、院内感染や医療事故等を未然に防ぐ具体的対策を考え、演習を通して、より実践的に学ぶ。				
到 達 目 標	・各管理の目的について説明ができる。 ・安全管理の目的について説明ができる。 ・予見したリスクや対策について考えを発言できる。 ・学生生活や臨床実習時に、安全管理に基づいた行動がとれる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	テキスト：リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン第2版 配布資料：リハビリテーションリスク管理ハンドブック、訪問リハ危険予知トレーニング、他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	リハビリテーションにおけるリスク管理 総論①				高木勝隆
第2回	リハビリテーションにおけるリスク管理 総論②				〃
第3回	リハ医療における職場管理：概論、人の管理、接遇・倫理、患者の権利				〃
第4回	リハ医療における安全管理：身体拘束、診療記録、個人情報				〃
第5回	リハ医療における安全管理：概論、処方箋、施設整備、インシデント・アクシデント				〃
第6回	リハ医療における安全管理：急変時対応、転倒対策、チューブ管理、誤認対策、離院対策				〃
第7回	リハ医療における安全管理：KYT・KYT 演習				〃
第8回	リハ医療における安全管理：根本原因分析法 (RCA)、RCA 演習				〃
第9回	リハ医療における安全管理：院内感染対策				〃
第10回	疾患ごとの急変予測 脳卒中①				〃
第11回	疾患ごとの急変予測 脳卒中②				〃
第12回	疾患ごとの急変予測 運動器疾患①				〃
第13回	疾患ごとの急変予測 運動器疾患②				〃
第14回	疾患ごとの急変予測 糖尿病				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法管理学	科目名	作業療法管理学
代 表 講 師	高 木 勝 隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として、職能団体の役員を担う教員が、作業療法管理の必要性和組織における管理のあり方、社会保障の概要、および職能団体における活動概要等について講義・演習する。				
授 業 概 要	作業療法士として、作業療法部門の業務を適正に管理運営するにあたっての管理についての理解を深め、国家資格取得後に現場で活動する医療人・組織人としての資質を高めることを目的とする。チームの一員としてまた、管理者として求められる社会保障制度の概要や職場での管理業務・リスク管理のあり方、自己管理や学生指導の基本的考え方等について理解を深める。職能団体の活動状況の理解を踏まえ、広く国民の医療・保健・福祉の向上に資するための取り組みについて学ぶ。				
到 達 目 標	作業療法管理学の必要性を説明できる。 病院等の組織とその管理のあり方を説明できる。 社会保障の概要を説明できる 職能団体の活動内容について説明できる。				
成績評価の方法と基準	小テスト 30%、定期試験 70%				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第 1 巻 作業療法概論』、『作業療法技術ガイド』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	作業療法と管理学の背景 ・ 作業療法士教育における管理学の必要性				
第 2 回	組織：目的、機能・役割				
第 3 回	組織の構成：縦の関係・横の関係、職種間連携のあり方				
第 4 回	部門管理と運営				
第 5 回	作業療法士の職業人としての責任				
第 6 回	職業人としての倫理				
第 7 回	作業療法士の生涯教育・生涯学修				
第 8 回	社会保障制度 医療保険				
第 9 回	社会保障制度 介護保険				
第10回	社会保障制度 障害者福祉				
第11回	作業療法分門の管理 時間・空間他				
第12回	作業療法分門の管理 時間・空間他				
第13回	作業療法分門の管理 時間・空間他				
第14回	日本作業療法士協会・熊本県作業療法士会の活動				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	作業療法評価学Ⅱ
代 表 講 師	洲 野 浩 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15 回 (30 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、作業療法士に必要な評価能力を身につけるため、検査意義や一連の流れを踏まえ身体機能における基本的な知識と検査技術について解説および実技指導する。				
授 業 概 要	学生自らが作業療法評価スキルを身につけるために、グループを単位として主体的学習を行う方法である skill lab (スキルラボ)・PSI (個別化教授システム) 学習方法を用い、視覚教材を中心に自己学習を進める。				
到 達 目 標	・作業療法評価における検査測定の意味を述べることができる。 ・感覚検査及び反射検査に必要な知識、技術を習得する。 ・徒手筋力検査の方法を理解し、技術を習得する。				
成績評価の方法と基準	事前小テスト (20%)、事後小テスト (20%)、レポート：患者家族への説明 (20%)、実技習熟度確認テスト (40%)				
テキスト・教材等	『《標準作業療法学 専門分野》作業療法評価学』、『新・徒手筋力検査法』、『PT・OT のための測定評価 DVD Series』2 形態測定・感覚検査・反射検査』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	・PSI (個別化教授システム) についての概要説明。 ・各検査及び測定項目における事前学習と事前小テスト、事後小テストについて ・反射検査の事前学習及び事前小テスト、反射検査の意味と実施方法、判定についての説明、反射検査実技のスキルラボ				洲野浩二 池田裕輔
第 2 回	反射・感覚検査：事前小テスト、レポート (患者家族への説明)、実技習熟度確認テスト、事後小テスト				〃
第 3 回	反射・感覚検査：事前小テスト、レポート (患者家族への説明)、実技習熟度確認テスト、事後小テスト				〃
第 4 回	反射・感覚検査：事前小テスト、レポート (患者家族への説明)、実技習熟度確認テスト、事後小テスト				〃
第 5 回	反射・感覚検査 (総合的学習)				〃
第 6 回	徒手筋力検査 (デモンストレーション及び事前学習)				〃
第 7 回	徒手筋力検査 (股関節)：事前小テスト、レポート (患者家族への説明)、実技習熟度確認テスト、事後小テスト				〃
第 8 回	徒手筋力検査 (膝関節)：事前小テスト、レポート (患者家族への説明)、実技習熟度確認テスト、事後小テスト				〃
第 9 回	徒手筋力検査 (足関節)：事前小テスト、レポート (患者家族への説明)、実技習熟度確認テスト、事後小テスト				〃
第10回	徒手筋力検査 (下肢の総合的学習)				〃
第11回	徒手筋力検査 (肩関節)：事前小テスト、レポート (患者家族への説明)、実技習熟度確認テスト、事後小テスト				〃
第12回	徒手筋力検査 (肘関節)：事前小テスト、レポート (患者家族への説明)、実技習熟度確認テスト、事後小テスト				〃
第13回	徒手筋力検査 (手関節・手指)：事前小テスト、レポート (患者家族への説明)、実技習熟度確認テスト、事後小テスト				〃
第14回	徒手筋力検査 (上肢の総合的学習)				〃
第15回	徒手筋力検査 (肩甲骨・体幹・その他)				〃

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	作業療法評価学Ⅲ
代 表 講 師	益 満 美 寿 (所属：熊本保健科学大学) 田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30 回 (60 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法業務に携わった経験を持つ教員等が、身体障害領域・精神障害領域・職業関連活動・老年期障害領域・発達障害領域において、作業療法評価における基礎的な考え方及び使用される検査内容と検査主義について講義する。				
授 業 概 要	各領域、疾患に対する評価に必要な知識や技術を講義・演習を通して学ぶ。				
到 達 目 標	1. 作業療法評価における基礎的な考え方を習得することができる。 2. 作業療法評価に使用される検査内容を理解し説明することができる。 3. 作業療法評価に使用される各検査技法を習得することができる。				
成績評価の方法と基準	・前期：第 1 回～14 回：筆記試験 (100%) ・後期：第16回～21回：筆記試験 (75%)、レポート (25%) 第22回～25回：筆記試験 (100%) 第26回～29回：筆記試験 (100%)				
テキスト・教材等	『作業療法学全書第 4 巻 作業治療学 1 身体障害』、『作業療法学全書第 5 巻 作業治療学 2 精神障害』、『作業療法学全書第 7 巻 作業治療学 4 老年期』、『作業療法学全書第 8 巻 作業治療学 5 高次脳機能障害』、『図解 作業療法技術ガイド』、『《標準作業療法学専門分野》作業療法評価学』、『臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	気分と疲労のチェックリスト・ウォッチングリスト・作業遂行能力の評価他 演習				矢形あゆみ
第 2 回	気分と疲労のチェックリスト・ウォッチングリスト・作業遂行能力の評価他 演習				〃
第 3 回	精神障害者ケアアセスメント他 演習				〃
第 4 回	精神障害者ケアアセスメント他 演習				〃
第 5 回	Br. stage、上田の 1 2 段階グレード法、協調性検査、脳神経検査、平衡機能検査、機能的筋力検査 他				渕野浩二
第 6 回	身体障害領域の評価 (中枢神経障害・高次脳機能障害) 演習				〃
第 7 回	身体障害領域の評価 (中枢神経障害・高次脳機能障害) 演習				〃
第 8 回	身体障害領域の評価 (中枢神経障害・高次脳機能障害) 演習				〃
第 9 回	VPTA、SPTA-R、CAT、TMT、BADS、RBMT、三宅式記銘力検査 他				〃
第10回	身体障害領域の評価 (中枢神経障害・高次脳機能障害) 演習				〃
第11回	身体障害領域の評価 (中枢神経障害・高次脳機能障害) 演習				〃
第12回	身体障害領域の評価 (中枢神経障害・高次脳機能障害) 演習				〃
第13回	身体障害領域の評価 (中枢神経障害・高次脳機能障害) 演習				〃
第14回	身体障害領域の評価 (中枢神経障害・高次脳機能障害) 演習				〃
第15回	試 験				
第16回	身体障害領域の評価 (運動器障害) 演習：血圧、脈拍測定、STEF, SW-T, 握力, ピンチ力, 2PD, 手指機能検査 他				高木勝隆
第17回	身体障害領域の評価 (運動器障害) 演習：血圧、脈拍測定、STEF, SW-T, 握力, ピンチ力, 2PD, 手指機能検査 他				〃
第18回	一般職業適性検査 (G A T B), 職務分析				〃
第19回	一般職業適性検査 (G A T B), 職務分析				〃
第20回	一般職業適性検査 (G A T B), 職務分析				〃
第21回	一般職業適性検査 (G A T B), 職務分析				〃
第22回	老年期障害領域の評価 (観察のポイント)				田河和代
第23回	老年期障害領域の評価				〃
第24回	老年期障害領域の評価 演習				〃
第25回	老年期障害領域の評価 演習				〃
第26回	発達障害領域の評価 演習 (家族との面接、発達検査における留意点)				益満美寿
第27回	発達障害領域の評価 演習 (発達全般を評価する検査、運動機能の評価)				〃
第28回	発達障害領域の評価 演習 (感覚統合機能の評価、視覚・視覚認知の評価、行動の評価)				〃
第29回	発達障害領域の評価 演習 (作業遂行・身辺処理の評価、疾患・障害による評価の選択)				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	作業療法評価学Ⅳ
代 表 講 師	浏 野 浩 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、身体障害領域・精神障害領域・老年期障害領域において心身機能と構造、活動と参加、背景因子との関連性をアセスメントシートを通し、作業療法評価の視点や考え方について解説する。				
授 業 概 要	事例（脳血管障害、統合失調症、認知症等）を用い、作業療法評価の視点や評価結果から心身機能と構造、活動と参加、背景因子との関連性を考察し、熊リハ版アセスメントシートを通し講義・演習を行う。				
到 達 目 標	・各領域の障害評価について客観的なデータに基づいて分析することができる。 ・アセスメントシートに従って障害を構造化し課題に対して作業療法目標を設定することができる。 ・作業療法目標に沿って、より具体的な作業療法実践プログラムを計画することができる。				
成績評価の方法と基準	熊リハ版アセスメントシート課題提出（100%）				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害』、『作業療法学全書 第5巻 作業治療学2 精神障害』、『作業療法学全書 第7巻 作業治療学4 老年期』、『作業療法学全書 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害』、『標準作業療法学「作業療法評価学」』、『図解作業療法技術ガイド』、『作業療法マニュアル 生活行為向上マネジメント』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	精神障害領域の事例検討（統合失調症）				矢形あゆみ
第2回	精神障害領域の評価 まとめ				〃
第3回	精神障害領域の評価 まとめ				〃
第4回	精神障害領域の評価 まとめ				〃
第5回	精神障害領域の評価 まとめ				〃
第6回	老年期障害領域の事例検討（認知症等）				川口航平
第7回	老年期障害領域の評価 まとめ				〃
第8回	老年期障害領域の評価 まとめ				〃
第9回	老年期障害領域の評価 まとめ				〃
第10回	老年期障害領域の評価 まとめ				〃
第11回	身体障害の事例検討（脳血管障害）				浏野浩二 池田裕輔
第12回	身体障害領域の評価 まとめ				〃
第13回	身体障害領域の評価 まとめ				〃
第14回	身体障害領域の評価 まとめ				〃
第15回	身体障害領域の評価 まとめ				〃

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学 I 演習
代 表 講 師	洲 野 浩 二（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30 回（60 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	身体障害領域の病院での勤務経験のある作業療法士の教員がその経験を活かし、各疾患の作業療法評価およびゴール設定、作業療法アプローチの組み立てを指導する。				
授 業 概 要	知識は予習で学習を行い、応用演習問題を用いてディスカッションを行いながら応用力を高める。中枢神経疾患の作業療法について作業療法評価計画とアプローチ方法をチーム基盤型学習（TBL）にて講義と演習を行う。				
到 達 目 標	1. 問題発見と問題解決のための学習計画を立てることができる。 2. 学習に必要な学習資源（文献・資料）を自分で適切なものを選択できるようになる。 3. 中枢疾患（脳血管障害、頭部外傷）、整形外科疾患（脊髄損傷・切断）等の各疾患の障害像を説明できる。 4. 各疾患の作業療法評価およびゴール設定を組み立てることができる。 5. 各疾患の作業療法アプローチを組み立てることができる。				
成績評価の方法と基準	IRAT（25%）、TRAT（20%）、ピア評価（15%）、学習ポートフォリオ（10%）、応用演習問題（30%）				
テキスト・教材等	『作業療法全書 第4巻 作業治療学1 身体障害』、『作業療法全 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害』、『作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学』、『図解 作業療法技術ガイド』、『病気がみえる〈vol. 7〉脳・神経』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	脳血管障害の作業療法 ユニット1：急性期				
第2回	脳血管障害の作業療法 ユニット1：急性期				
第3回	脳血管障害の作業療法 ユニット1：急性期				
第4回	脳血管障害の作業療法 ユニット2：回復期				
第5回	脳血管障害の作業療法 ユニット2：回復期				
第6回	脳血管障害の作業療法 ユニット3：回復期				
第7回	脳血管障害の作業療法 ユニット3：回復期				
第8回	脳血管障害の作業療法 ユニット4：生活期				
第9回	脳血管障害の作業療法 ユニット4：生活期				
第10回	脳血管障害の作業療法 ユニット4：生活期				
第11回	脳血管障害の作業療法 ユニット5：高次脳機能障害（右半球）				
第12回	脳血管障害の作業療法 ユニット5：高次脳機能障害（右半球）				
第13回	脳血管障害の作業療法 ユニット5：高次脳機能障害（右半球）				
第14回	脳血管障害の作業療法 ユニット6：高次脳機能障害（左半球）				
第15回	脳血管障害の作業療法 ユニット6：高次脳機能障害（左半球）				
第16回	脳血管障害の作業療法 ユニット6：高次脳機能障害（左半球）				
第17回	脳血管障害の作業療法 ユニット7：頭部外傷				
第18回	脳血管障害の作業療法 ユニット7：頭部外傷				
第19回	脳血管障害の作業療法 ユニット7：頭部外傷				
第20回	脳血管障害の作業療法 ユニット7：頭部外傷				
第21回	頸髄損傷の作業療法 ユニット8：急性期				
第22回	頸髄損傷の作業療法 ユニット8：急性期				
第23回	頸髄損傷の作業療法 ユニット8：急性期				
第24回	頸髄損傷の作業療法 ユニット9：回復期				
第25回	頸髄損傷の作業療法 ユニット9：回復期				
第26回	頸髄損傷の作業療法 ユニット9：回復期				
第27回	上肢切断と作業療法 ユニット10：回復期				
第28回	上肢切断と作業療法 ユニット10：回復期				
第29回	上肢切断と作業療法 ユニット10：回復期				
第30回	上肢切断と作業療法 ユニット10：回復期				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅱ演習
代 表 講 師	松 元 義 彦 (所属：(株)カクイックスウィング鹿児島中央営業所) 高 木 勝 隆 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30 回 (60 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	松元：総合病院に勤務していた作業療法士が、整形外科疾患に対する作業療法の経験を活かし講義する。 高木：作業療法士として病院に勤務していた教員が、対象者の評価、治療、日常生活活動指導等の経験を活かし、主として整形外科疾患に対する作業療法に関する基本的知識について講義する。				
授 業 概 要	作業療法の対象となる疾患のうち、主として整形外科関連の対象に対して、疾患の基礎知識と作業療法評価、治療について講義する。また、自助具やスプリントの製作実習を通して、必要な製作技術を講義する。				
到 達 目 標	・関節リウマチの手指変形発生機序について説明することができる。 ・末梢神経損傷の基礎知識と作業療法評価、治療を説明することができる。 ・骨折、手指腱損傷、熱傷の基礎知識と作業療法評価、治療を説明することができる。 ・自助具及びスプリントを用いた技法についてその製作実習を通し理解し、技術を習得する。				
成績評価の方法と基準	定期試験 100%				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第4 巻 作業治療学1 身体障害』、『《標準作業療法学 専門分野》作業療法評価学』、『標準整形外科学』、『病気が見える＜ vol.11 ＞運動器・整形外科』、『基礎運動学』、『作業療法技術ガイド』、『手作り自助具の工作技術』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	関節リウマチに対する OT：変形の発生機序				高木勝隆
第2回	関節リウマチに対する OT：変形の発生機序				〃
第3回	末梢神経損傷：末梢神経損傷の基礎知識、発生機序、臨床症状、一般的治療				〃
第4回	末梢神経損傷：末梢神経損傷の基礎知識、発生機序、臨床症状、一般的治療				〃
第5回	末梢神経損傷：腕神経叢の解剖				〃
第6回	末梢神経損傷：各固有末梢神経損傷の概要				〃
第7回	末梢神経損傷：各固有末梢神経損傷の概要				〃
第8回	末梢神経損傷：各固有末梢神経損傷の概要				〃
第9回	末梢神経損傷：OT 評価（評価の目的、神経機能評価、心理精神面の評価、社会面の評価）				〃
第10回	末梢神経損傷：OT 評価（評価の目的、神経機能評価、心理精神面の評価、社会面の評価）				〃
第11回	末梢神経損傷：OT 評価（評価の目的、神経機能評価、心理精神面の評価、社会面の評価）				〃
第12回	末梢神経損傷：OT 治療（回復性及び非回復性の麻痺の治療、手の統合機能）				〃
第13回	末梢神経損傷：OT 治療（回復性及び非回復性の麻痺の治療、手の統合機能）				〃
第14回	手指腱損傷：OT 評価（検査方法の紹介と説明）				〃
第15回	手指腱損傷：OT 治療（スプリント、ハンドセラピー）				〃
第16回	骨折：基礎知識（定義、種類と分類、症状、合併症、整復固定）				〃
第17回	骨折：OT 評価（目的と留意点、固定・脱固定期間の治療）				〃
第18回	熱傷の基礎知識と OT：上皮の構造、熱傷の程度、OT 評価、注意事項、OT 治療、禁忌事項				〃
第19回	自助具：Ⅰ．自助具とは Ⅱ．自助具作製のプロセス				〃
第20回	自助具：Ⅲ．自助具の実際（上肢機能障害と自助具適合の為のヒントとポイント）				〃
第21回	自助具：Ⅳ．自助具製作のプロセス				〃
第22回	自助具：Ⅴ．製作実習（リーチャー2種）				〃
第23回	自助具：Ⅴ．製作実習（リーチャー2種）				〃
第24回	スプリント：Ⅰ．装具の用語について Ⅱ．手の機能解剖、Ⅲ．装着目的 Ⅳ．分類 Ⅴ．材料と特性				松元義彦
第25回	スプリント：Ⅵ．上肢の主な障害と使用スプリント Ⅶ．スプリントの力学的原則 Ⅷ．OT の役割 Ⅸ．スプリントの条件				〃
第26回	スプリント：Ⅹ．製作について ⅩⅠ．処方について				〃
第27回	スプリント：ⅩⅡ．製作実習（ring type splint/cock up splint）				〃
第28回	スプリント：ⅩⅡ．製作実習（ring type splint/cock up splint）				〃
第29回	スプリント：ⅩⅡ．製作実習（ring type splint/cock up splint）				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅲ演習
代 表 講 師	矢 形 あゆみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30 回 (60 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	精神障害領域における作業療法に携わった経験のある教員が、精神障害のある対象者に対する作業療法を実施するために必要な知識・技術・態度について講義・指導する。				
授 業 概 要	模擬事例を通し、臨床場面に沿った流れで、評価から作業療法実施まで行う。また、グループごとのまとめや精神障害の経験者からの講話および語りを通して、精神障害の理解を深める。				
到 達 目 標	1. 統合失調症の事例について、情報の整理・必要な評価項目の列挙・実施・プログラム立案をグループおよび個人で行うことができる。 2. 各精神疾患の事例を通して、疾患の障害像を整理し、適切な作業療法をグループで説明することができる。 3. 精神障害の経験を有し、専門職や社会で活躍している方の講話および語りを通して、実体験に基づく視点と専門的実践について理解する。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、ピア評価 (20%)				
テキスト・教材等	『精神障害と作業療法』、『作業療法学全書 精神障害』、『ひとと集団・場』、『ひとと作業・作業活動』、『図解作業療法技術ガイド』、『標準理学療法学・作業療法学 精神医学』、『精神疾患の理解と精神科作業療法第2版』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	オリエンテーション 精神障害に対する作業療法について・事例紹介 (統合失調症)				矢形あゆみ
第2回	事例 (統合失調症) との出会い				〃
第3回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を考える 事例 (統合失調症) について記録する				〃
第4回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) について記録する				〃
第5回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) について記録する				〃
第6回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) の記録をもとに全体像を捉える				〃
第7回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) について記録する				〃
第8回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) の記録をもとに全体像を捉える				〃
第9回	事例 (統合失調症) の焦点化				〃
第10回	事例 (統合失調症) の目標設定・作業療法計画立案				〃
第11回	事例 (統合失調症) の作業療法実施				〃
第12回	事例 (統合失調症) の作業療法実施				〃
第13回	気分症 (気分障害) の理解 事例紹介および疾患の理解				〃
第14回	気分症 (気分障害) に対する作業療法				〃
第15回	アルコール依存症・薬物依存症の理解 事例紹介および疾患の理解				〃
第16回	アルコール依存症・薬物依存症に対する作業療法				〃
第17回	ボーダーラインパーソナリティ症 (境界性パーソナリティ障害) の理解 事例紹介および疾患の理解				〃
第18回	ボーダーラインパーソナリティ症 (境界性パーソナリティ障害) に対する作業療法				〃
第19回	不安症・強迫症・ストレス関連症 (神経症性障害) の理解 事例紹介および疾患の理解				〃

回 数	授 業 内 容	担当講師
第20回	不安症・強迫症・ストレス関連症（神経症性障害）に対する作業療法	矢形あゆみ
第21回	摂食症（摂食障害）の理解 事例紹介および疾患の理解	〃
第22回	摂食症（摂食障害）に対する作業療法	〃
第23回	精神障害作業療法の対象理解～経験を背景にもつ専門職の視点から～「依存症」	非常勤講師
第24回	精神障害作業療法の対象理解～経験を背景にもつ専門職の視点から～「依存症」	〃
第25回	精神障害作業療法の対象理解～現在の活動や経験から～「摂食症（摂食障害）」	〃
第26回	精神障害作業療法の対象理解～現在の活動や経験から～「気分症（気分障害）」	〃
第27回	精神障害作業療法の対象理解～現在の活動や経験から～「気分症（気分障害）」	〃
第28回	地域生活支援と作業療法「精神障害者に対する地域における取り組み」	〃
第29回	地域生活支援と作業療法「精神障害者に対する地域における取り組み」	〃
第30回	試 験	

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅳ
代 表 講 師	益 満 美 寿 (所属：熊本保健科学大学) 満 永 晴 美 (所属：山鹿温泉リハビリテーション病院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
授 業 概 要	・人間発達の過程と発達課題、発達障害、発達障害に対する評価・治療及び援助の実践を学ぶ。また、発達障害における支援制度や地域における発達支援方法を学ぶ。				
到 達 目 標	・各疾患の臨床像をイメージでき、抱える課題を解決する為の作業療法評価・実践方法を想起できるようになる。				
成績評価の方法と基準	定期試験 90% レポート 10%				
テキスト・教材等	イラストでわかる発達障害の作業療法 イラストでわかる人間発達学 作業療法評価学（第3版）				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	発達概念（人間発達／ライフステージ／発達課題）				益満美寿
第 2 回	心身機能の発達（発達検査）				〃
第 3 回	心身機能の発達（姿勢反射・反応 1）				〃
第 4 回	心身機能の発達（姿勢反射・反応 2）				〃
第 5 回	心身機能の発達（運動発達 0 ～ 9 ヶ月）				〃
第 6 回	心身機能の発達（上肢機能の発達）				満永晴美
第 7 回	心身機能の発達（感覚・知覚の発達）				〃
第 8 回	心身機能の発達（心理社会機能の発達）				〃
第 9 回	ADL・遊び・余暇活動の発達				〃
第10回	心身機能の発達（運動発達 10 ヶ月～2 歳）				益満美寿
第11回	作業療法士の役割と実施場所・形態				満永晴美
第12回	ADL の発達（口腔機能／食事動作の発達）				益満美寿
第13回	ADL の発達（セルフケア／摂食・嚥下の問題）				〃
第14回	発達障害者支援法・児童福祉に関する法律と制度				〃
第15回	試 験				
第16回	発達障害の作業療法／特別支援教育の作業療法				満永晴美
第17回	自閉スペクトラム症の作業療法／発達性協調運動症の作業療法				〃
第18回	注意欠如多動症の作業療法				〃
第19回	限局性学習症の作業療法				〃
第20回	新生児疾患（NICU 対象児）／被虐待児への作業療法				〃
第21回	脳性まひの作業療法①				益満美寿
第22回	脳性まひの作業療法②				〃
第23回	脳性まひの作業療法の実際（介入方法）				〃
第24回	重症心身障がいの作業療法				〃
第25回	知的障がいの作業療法				〃
第26回	ダウン症候群の作業療法				〃
第27回	筋ジストロフィー症の作業療法				〃
第28回	二分脊椎・分娩まひの作業療法				〃
第29回	家族支援・育児支援に対する作業療法				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学 V
代 表 講 師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30 回 (60 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	実務経験のある教員が、老年期障がいおよび認知症を有する高齢者に対する作業療法の基礎知識・評価・作業療法アプローチについて指導する。				
授 業 概 要	老年期障がいおよび認知症を有する高齢者に対する作業療法の基礎知識・評価・作業療法アプローチについて講義・演習を行う。				
到 達 目 標	・ 高齢障がい者及び認知症を有する人の、心身機能の構造・活動・参加・背景因子など、総合的な生活機能と障がいを理解できる。 ・ 適切な評価方法を学習し、作業療法アプローチを構築することができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、課題レポート (20%)				
テキスト・教材等	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学 (第 5 版)』、『認知症を持つ人への作業療法アプローチ視点・プロセス・理論』、『病気がみえる (vol. 7) 脳・神経』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	老年期作業療法の理念、高齢期の作業療法士の役割				
第 2 回	社会制度 (保健・医療・福祉制度)、介護保険				
第 3 回	老年期の特徴 (生活機能遂行要素：老化)				
第 4 回	老年期の特徴 (生活機能遂行要素：老化)				
第 5 回	老年期の特徴 (生活課題)				
第 6 回	老年期の特徴 (老年期の課題)				
第 7 回	廃用症候群について				
第 8 回	加齢に伴う生理的变化、老年症候群				
第 9 回	老年期に注意すること、老年期の介護予防				
第10回	寝たきりと閉じこもりについて				
第11回	老年期の作業療法プロセス (評価からアプローチ)				
第12回	老年期のレクリエーションの考え方				
第13回	認知症の基礎知識：認知症の定義・MCI について				
第14回	認知症の基礎知識：記憶とは？				
第15回	認知症の基礎知識：認知症の分類				
第16回	認知症の基礎知識：認知症の分類				
第17回	認知症の基礎知識：中核症状・BPSD				
第18回	認知症の行動心理学的症状 (BPSD に対する具体的対応を考える)				
第19回	認知症の基礎知識：薬物療法・非薬物療法				
第20回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：認知症を持つ人へのアプローチ				
第21回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法のプロセス、多職種連携				
第22回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：評価				
第23回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：評価				
第24回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：評価				
第25回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の理論				
第26回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の理論				
第27回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の介入・技術				
第28回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の介入・技術				
第29回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の介入・技術				
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学VI
代 表 講 師	池 田 裕 輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、循環器疾患の病態・症候から作業療法評価ならびに治療的介入に関する基本的知識と手法について講義する。				
授 業 概 要	内部障害に対する作業療法に必要な病態や治療の基礎知識及びリスク管理に関する知識と技術について講義を行う。				
到 達 目 標	・心疾患、呼吸器疾患、がんの臨床像について述べることができる。 ・心疾患、呼吸器疾患、がんのリスク管理について説明することができる。 ・心疾患、呼吸器疾患、がんに対するリハビリテーションと作業療法について説明することができる。 ・喀痰吸引の目的と方法、手順について説明することができる。				
成績評価の方法と基準	確認テスト（20%）、理解度テスト（20%）、レポート（20%）、学習ポートフォリオ（40%）				
テキスト・教材等	『作業療法技術ガイド』、『病気がみえる〈vol.2〉循環器』、『病気がみえる〈vol.4〉呼吸器』、『からだがみえる 人体の構造と機能』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	心疾患の作業療法①：循環器系の構造と機能について				池田裕輔
第 2 回	心疾患の作業療法②：循環器疾患の病態について				〃
第 3 回	心疾患の作業療法③：循環器疾患の病態について				〃
第 4 回	心疾患の作業療法④：心疾患の評価（心電図）とリスク管理				〃
第 5 回	心疾患の作業療法⑤：心疾患に対する運動処方と作業療法評価について				〃
第 6 回	心疾患の作業療法⑥：心疾患の作業療法				〃
第 7 回	呼吸器疾患の作業療法①：呼吸のメカニズム、解剖生理				〃
第 8 回	呼吸器疾患の作業療法②：呼吸器疾患の病態について				〃
第 9 回	呼吸器疾患の作業療法③：呼吸器疾患の評価とリスク管理				〃
第10回	呼吸器疾患の作業療法④：呼吸器疾患のリハビリテーション概要と生活指導				〃
第11回	呼吸器疾患の作業療法⑤：呼吸器疾患の作業療法				〃
第12回	呼吸器疾患の作業療法⑥：喀痰吸引				刈野浩二 池田裕輔
第13回	がんの作業療法①：がんの病態について				池田裕輔
第14回	がんの作業療法③：がんリハビリテーションに対する作業療法士の役割				〃
第15回	がんの作業療法④：がんの作業療法				〃

学 科	作業療法学科 2年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	義肢装具学
代 表 講 師	本 田 智 裕（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	義肢装具士業務に携わった経験を持つ教員が、作業療法士を目指す者に義肢装具の基礎、中でも上肢装具・義手について講義する。				
授 業 概 要	義肢装具の種類・分類・機能について講義する。				
到 達 目 標	義肢装具の中で、特に上肢装具・義手について理解し説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 義肢装具学』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	装具総論（装具とは？、装具の種類・分類）				本田智裕
第2回	体幹装具（脊椎の外傷・疾患に対する装具の種類と適応）				〃
第3回	下肢装具（種類と適応・装具歩行について）				〃
第4回	その他の補装具（車いす・座位保持装置・杖）				〃
第5回	上肢装具①（神経系疾患と上肢装具の適応）				〃
第6回	上肢装具②（整形外科疾患・外傷と上肢装具の適応）				〃
第7回	義肢総論（義肢とは？義肢の名称と分類）				石内寛丈
第8回	義足総論（義足構成要素の特徴と適応）				〃
第9回	義手総論（上肢の機能、義手の分類、義手の構造）				〃
第10回	義手のソケット（切断部位とソケットデザイン）				〃
第11回	義手の構成要素①（手先具、手継手、肘継手）				〃
第12回	義手の構成要素②（コントロールケーブルシステム、ハーネス等）				〃
第13回	義手の適合判定（検査項目、問題と原因など）				〃
第14回	切断総論（切断者のリハビリテーション等）				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 2年次	教育 内容	地域作業療法学	科目名	地域作業療法学概論
代 表 講 師	田 河 和 代（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院） 非常勤講師				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、地域作業療法に必要な考え方、支援方法について指導する。				
授 業 概 要	地域リハビリテーションの概念、各領域における地域生活支援、地域作業療法の実際についての講義、グループワーク				
到 達 目 標	・地域作業療法の基本（評価・多職種連携）を説明することができる。 ・各領域での作業療法士の活動内容と役割を理解し説明できる。 ・各領域での地域生活支援をグループワーク等を通して考察し説明することができる。				
成績評価の方法と基準	講義中の講義レポートを含む形成的評価（80%） 課題レポート（20%）				
テキスト・教材等	『作業療法学講座 地域作業療法学』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	地域作業療法の概要				田河和代
第2回	地域作業療法に必要な制度及び連携の知識				〃
第3回	地域作業療法のリスク管理				〃
第4回	地域作業療法学：訪問リハビリテーションにおける作業療法士の役割				〃
第5回	地域作業療法学：通所リハビリテーションにおける作業療法士の役割				〃
第6回	地域作業療法学：精神科領域における作業療法士の役割				〃
第7回	地域作業療法学：認知症の方を地域で支える				〃
第8回	地域作業療法学：介護予防（介護予防の必要性を考える）				〃
第9回	地域作業療法学：終末期における作業療法士の役割				〃
第10回	地域作業療法学：司法における作業療法士の役割				〃
第11回	地域作業療法学：災害時における作業療法士の役割				〃
第12回	地域作業療法学：他業種における作業療法士の可能性				〃
第13回	地域作業療法学：学校における作業療法士の役割				〃
第14回	地域作業療法学×こども作業療法				田崎梨紗子
第15回	〃				〃

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	地域作業療法学	科目名	生活環境論
代 表 講 師	田 河 和 代（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、リハビリテーションや作業療法の立場から、対象者の生活をイメージした住宅改修や福祉用具の適応について指導する。				
授 業 概 要	対象者の自立した生活を支援するための福祉用具や住宅改修等について、視聴覚教材等も使用し、講義・演習を通して授業する。				
到 達 目 標	障害者、高齢者における生活環境の重要性を理解し、リハビリテーションや作業療法の立場から、対象者の生活をイメージした住宅改修や福祉用具の適応について説明することができる。				
成績評価の方法と基準	講義中の講義レポート及び課題による形成的評価（100%）				
テキスト・教材等	『福祉住環境コーディネーター検定試験 2 級公式テキスト』、『テクニカルエイド 生活の視点で役立つ選び方・使い方』、『福祉機器選び方・使い方セミナー副読本 2021 年度版』、『リハビリテーションテキスト 生活環境学』、DVD 他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	生活環境の概念：生活環境の定義・障害と生活環境・ICF と生活環境				田河和代
第 2 回	生活環境の評価：評価の目的と評価項目、情報収集の方法、ADL と生活環境、人的環境と物理環境				〃
第 3 回	移乗動作関連用具：ベッド、リフト				高木学科長
第 4 回	移乗動作関連用具：スライディングシート、スライディングボード、グローブ				田河和代
第 5 回	移動動作関連用具：杖、歩行器				〃
第 6 回	移動動作関連用具：車椅子の種類、構造、使用方法				〃
第 7 回	移動動作関連用具：シーティングの基礎知識①				〃
第 8 回	移動動作関連用具：シーティングの基礎知識②				〃
第 9 回	心身機能と生活環境：手指・上肢機能と生活支援機器				〃
第10回	心身機能と生活環境：手指・上肢機能と生活支援機器（疾患に対応した自助具を作ってみよう）				〃
第11回	心身機能と生活環境：家事動作と生活支援機器				〃
第12回	心身機能と生活環境：片手で卵焼きを作ってみよう				〃
第13回	心身機能と生活環境：嚥下機能を考えよう				〃
第14回	心身機能と生活環境：レクリエーション、スポーツ				〃
第15回	心身機能と生活環境：障がい者スポーツを体験してみよう				〃
第16回	心身機能と生活環境：コミュニケーション能力と ICT				〃
第17回	〃				〃
第18回	心身機能と生活環境：認知機能と ICT				〃
第19回	〃				〃
第20回	心身機能と生活環境：入浴動作関連機器				〃
第21回	〃				〃
第22回	心身機能と生活環境：排泄動作関連機器				〃
第23回	〃				〃
第24回	運転支援と作業療法				〃
第25回	生活環境支援における制度の活用：医療保険、介護保険、障害者総合支援法				〃
第26回	住環境に関連した生活支援（国試問題を解いてみよう）				〃
第27回	〃（住宅環境の基礎知識①）				〃
第28回	〃（住宅環境の基礎知識②）				〃
第29回	住環境に関連した生活支援：事例検討				〃
第30回	〃				〃

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	評価実習 I（身体機能系）
代 表 講 師	田 河 和 代（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院） 実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	3	学期・回数	後期（120 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な評価技能を身につけるため、病院・施設等の臨床現場において、臨床教育者の指導の下、担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う。				
授 業 概 要	作業療法対象者の生活を送る上での機能障害・活動制限・参加制約等を把握し、全体像を捉えるために必要な評価方法を臨床現場で習得する。また評価結果から適切な作業療法計画を立案することを本実習の主な目的とする。さらに社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上、充実を図る。				
到 達 目 標	1. 職業人としての常識的態度を身につける 2. 責任ある行動を身につける 3. 自己管理ができる 4. 意欲的に取り組む姿勢（探求心・創造性）を身につける 5. 作業療法評価計画を立てることができる 6. 情報収集・面接・観察・検査測定ができる 7. 評価結果を整理し全体像を把握することができる 8. 目標を設定することができる 9. 治療プログラムを立案することができる 10. 治療器具・道具を安全に使用し管理ができる 11. リスク管理について理解できる 12. 記録文書（電子データ含む）の管理が適切にできる 13. 他部門（他職種）との連携がとれる 14. 施設の特徴について理解できる				
成績評価の方法と基準	臨床教育者（CE）による学生の実習経験状況評価（25%）、OSCE（客観的臨床能力試験）（20%）、成果試験（15%）、症例報告（5%）、実習ポートフォリオ（35%）				
テキスト・教材等	特になし				
回 数	授 業 内 容				
3 週間	評価実習 I （身体機能系） 〈期間〉 2027 年 2 月 8 日（月）～ 2 月 27 日（土） 〈実習方法〉 学外実習施設のスケジュールに従った実習 〈学習内容〉 ①オリエンテーション ②担当予定の症例紹介および評価開始 ③リハビリテーション（または作業療法）部門の見学等 ④その他（他部門の見学、担当症例の評価レポート作成、他の作業療法対象者の部分的評価体験） ⑤対象者の OT 評価 ⑥ OT 評価結果のまとめ ⑦ OT 評価結果からの課題焦点化 ⑧ OT プログラムの立案 〈その他〉 ・必要に応じた課題提出 ・施設内勉強会への参加				

学 科	作業療法学科 2 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	評価実習Ⅱ（精神機能系）
代 表 講 師	田 河 和 代（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院） 実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	3	学期・回数	後期（120 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な評価技能を身につけるため、病院・施設等の臨床現場において、臨床教育者の指導の下、担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う。				
授 業 概 要	作業療法対象者の生活を送る上での機能障害・活動制限・参加制約等を把握し、全体像を捉えるために必要な評価方法を臨床現場で習得する。また評価結果から適切な作業療法計画を立案することを本実習の主な目的とする。さらに社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上、充実を図る。				
到 達 目 標	1. 職業人としての常識的態度を身につける 2. 責任ある行動を身につける 3. 自己管理ができる 4. 意欲的に取り組む姿勢（探求心・創造性）を身につける 5. 作業療法評価計画を立てることができる 6. 情報収集・面接・観察・検査測定ができる 7. 評価結果を整理し全体像を把握することができる 8. 目標を設定することができる 9. 治療プログラムを立案することができる 10. 治療器具・道具を安全に使用し管理ができる 11. リスク管理について理解できる 12. 記録文書（電子データ含む）の管理が適切にできる 13. 他部門（他職種）との連携がとれる 14. 施設の特徴について理解できる				
成績評価の方法と基準	臨床教育者（CE）による学生の実習経験状況評価（25%）、OSCE（客観的臨床能力試験）（20%）、成果試験（15%）、症例報告（5%）、実習ポートフォリオ（35%）				
テキスト・教材等	特になし				
回 数	授 業 内 容				
3 週間	評価実習Ⅱ （精神機能系） 〈期間〉 2026 年 9 月 7 日（月）～ 9 月 30 日（水） 〈実習方法〉 学外実習施設のスケジュールに従った実習 〈学習内容〉 ①オリエンテーション ②担当予定の症例紹介および評価開始 ③リハビリテーション（または作業療法）部門の見学等 ④その他（他部門の見学、担当症例の評価レポート作成、他の作業療法対象者の部分的評価体験） ⑤対象者の OT 評価 ⑥ OT 評価結果のまとめ ⑦ OT 評価結果からの課題焦点化 ⑧ OT プログラムの立案 〈その他〉 ・必要に応じた課題提出 ・施設内勉強会への参加				